

CASBEE[®] あいち

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)/2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ラ・ムー稲沢店	階数	地上1階
建設地	愛知県稲沢市奥田天目寺町1番1	構造	S造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	700人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年1月 予定	評価の実施日	2024年2月22日
敷地面積	8,818 m ²	作成者	笹原一馬
建築面積	2,602 m ²	確認日	2024年2月27日
延床面積	2,577 m ²	確認者	伊藤公

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	322	100%
②建築物の取組み	238	74%
③上記+②以外の	238	74%
④上記+	238	74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>8.6 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	8.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	8.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr><td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td><td>なし</td></tr> <tr><td>〈建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材〉</td><td>なし</td></tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)ラ・ムー稲沢店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	-	-	-	-	-	3.0
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	-	-	3.0
1.2.1 開口部遮音性能		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-
1.2.2 1 開口部遮音性能		-	3.0	1.00	-	3.0	-	-	-	-
1.2.2 2 界壁遮音性能		-	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
1.3 吸音		-	3.0	0.20	-	3.0	-	-	-	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御		0.3	2.6	0.35	-	-	-	-	-	2.6
2.1.1 室温		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
2.1.2 1 室温		3.0	3.0	0.50	-	3.0	-	-	-	-
2.1.2 2 外皮性能		3.0	3.0	0.17	-	3.0	-	-	-	-
2.1.2 3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		3.0	1.0	0.20	-	3.0	-	-	-	-
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30	-	3.0	-	-	-	-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		0.2	3.0	0.25	-	-	-	-	-	3.0
3.1.1 昼光率		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
3.1.2 1 昼光率		3.0	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
3.1.2 2 方位別開口		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
3.1.2 3 昼光利用設備		3.0	3.0	1.00	-	3.0	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.1 1 グレア対策		5.0	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
3.3 照度		3.0	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.50	-	3.0	-	-	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		0.2	3.8	0.25	-	-	-	-	-	3.8
4.1.1 発生源対策		0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-
4.1.1.1 化学汚染物質		3.0	4.0	1.00	-	3.0	-	-	-	-
4.2 換気		0.3	3.5	0.30	-	-	-	-	-	-
4.2.1 換気量		3.0	3.0	0.50	-	3.0	-	-	-	-
4.2.2 1 換気量		3.0	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
4.2.2 2 自然換気性能		3.0	4.0	0.50	-	3.0	-	-	-	-
4.2.2 3 取り入れ外気への配慮		3.0	4.0	0.50	-	3.0	-	-	-	-
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
4.3.2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	3.0
1.1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-
1.1.1.1 広さ・収納性		3.0	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
1.1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
1.1.1.3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-
1.2.1 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-
1.2.1.1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	5.0	0.33	-	3.0	-	-	-	-
1.2.1.2 天井高		3.0	3.0	0.33	-	3.0	-	-	-	-
1.2.1.3 リフレッシュスペース		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-	-	-
1.2.1.4 内装計画		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.1	0.31	-	-	-	-	-	3.1
2.1.1 耐震・免震・制震・制振		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2.1.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2.1.1.2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.7	0.33	-	-	-	-	-	-
2.2.1 部品・部材の耐用年数		0.3	3.7	0.33	-	-	-	-	-	-
2.2.1.1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.2.1.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	5.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.2.1.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-
2.2.1.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-
2.2.1.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-
2.2.1.6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	-
2.4.1 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	-
2.4.1.1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.4.1.2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.4.1.3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.4.1.4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.4.1.5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性					0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3	
3.1 空間のゆとり			②	売場の天井高さ3.99m	0.3	4.2	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり					5.0	5.0	0.60		3.0	-		
2 空間の形状・自由さ					3.0	3.0	0.40		3.0	-		
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	-		
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38		-	-	-	
1 空調配管の更新性					-	3.0	0.17		-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17		-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22		-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	2.2		
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30	-	-	2.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	3.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性						-	0.40	-	-	3.3		
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	3.8		
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.87	3.0	4.3	0.30	-	-	4.3		
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化				BEI=0.72	3.0	4.6	0.30	-	-	4.6		
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-			
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-			
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-			
集合住宅の評価					-	-	-	-	-			
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-			
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	2.8		
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	3.0		
1.1 節水					3.0	3.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63	-	-	2.7		
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.21	-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LGs下地を使用	3.0	4.0	0.25	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	3.0		
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-			
1 消火剤					-	-	-	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-			
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-			
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.1		
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率74%	-	4.0	0.33	-	-	4.0		
2 地域環境への配慮					0.3	2.6	0.33	-	-	2.6		
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.5	0.25	-	-			
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-			
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-			
3 交通負荷抑制			独自	立地法指導による	-	5.0	0.25	-	-			
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮					0.3	2.7	0.33	-	-	2.7		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-			
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-			
2 振動			独自		-	-	-	-	-			
3 悪臭					-	-	-	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-			
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-			
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-			
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制					0.2	1.6	0.20	-	-			
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策					-	1.0	0.70	-	-			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:8.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ラ・ムー稲沢店

計画上の配慮事項	
総合	建物をできる限り前面道路からセットバックした計画とした
Q1 室内環境	下地及び仕上げ材ともにシックハウス規制対象品F★★★★品を採用した
Q2 サービス性能	売場については天井高さを3990mm確保した
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により良好な景観形成に努めた
LR1 エネルギー	出来る限りLED照明を採用した
LR2 資源・マテリアル	LGS下地を採用することにより、躯体と仕上げ材を分別可能とした
LR3 敷地外環境	自転車置場等を適切に計画することにより、交通負荷抑制に努めた
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。